



取材協力をしてくださったボランティアさんをご紹介します。

◆二村さん(67) (上の写真 左側)

岐阜関ヶ原古戦場記念館サポーター歴3年目。設立初期メンバー。下呂市出身。

岐阜市在住ということもあって、歴史上の人物の中では特に織田信長が好き。

◆天野さん(64) (上の写真 右側)

岐阜関ヶ原古戦場記念館サポーター歴3年目。設立初期メンバー。養老町出身。

歴史上の人物の中では、関ヶ原の合戦の「島津の退き口」で有名な島津義弘が一番好き。

はじめに、岐阜関ヶ原古戦場記念館 企画課 企画連携係 井戸主任に、『岐阜関ヶ原古戦場記念館サポーター』の基本事項についてお聞きしました。

・設立何年目ですか？ 現在、何名のサポーターが所属していますか？

岐阜関ヶ原古戦場記念館は 2020 年 10 月に開館しました。

サポーターは会館前年の 2019 年に募集し、事前研修を修了した 27 名の方が所属しています。

・『岐阜関ヶ原古戦場記念館サポーター』の活動内容について教えてください。

サポーターさんには、基本的には土曜日と日曜日に、岐阜関ヶ原古戦場記念館の 2 階の戦国体験コーナーや 5 階の展望室にて来館者に対して簡単な案内をお願いしております。

またイベント時には、組みひもやマグネットを作るといったワークショップでの体験補助もしていただいています。

2ヶ月に一度皆さんの予定を照会し、都合のつく時に来ていただいています。

・『岐阜関ヶ原古戦場記念館サポーター』は、事前研修以外の研修はありますか？

サポーターになった後も研修はあります。

年度初めに館長からの講話を含めたサポーター研修会に参加していただいています。

・新規サポーターの募集の予定はありますか？

1 年単位の登録制なのですが、この 3 年間は開館したばかりで手探り状態だったため、新規サポーターの募集はせず、設立時のメンバーの更新登録で対応してきました。

まだ確定ではないのですが、来年度は新規サポーターの募集を考えています。

このことについては、今秋以降に当館ホームページにて募集案内を出す予定でいますので、そちらでご確認いただけたらと思います。

次にサポーターのお二人にお伺いしました。

・どれくらいのペースで『岐阜関ヶ原古戦場記念館サポーター』の当番をしていますか。

(二村さん)

月に3回から5回。

主に土曜日の午前10:00から午後3:00、休憩1時間をはさんで活動しています。

(天野さん)

私は毎週土曜日の午前と午後に活動しています。

時間は二村さんが話したとおりです。

・『岐阜関ヶ原古戦場記念館サポーター』になったきっかけは何ですか。

(二村さん)

長い間、東京で勤務をしていたのですが、2019年4月、退職まで2年という時に関ヶ原の史跡巡りをしました。

関ヶ原駅の前にある観光案内所でせきがはら史跡ガイドを依頼することができたので、午前中は一人で歩き、午後はガイド付きでまわったのですが大変楽しく過ごすことができました。

その当時、退職したら何をしようかと考えていた頃で、ガイドさんとの出会いから、せきがはら史跡ガイドになることも一時期考えました。

ですが、7年前に心筋梗塞をしたので、山の中にある史跡を案内するのは無理かなど…。

そんな2019年の夏に、岐阜関ヶ原古戦場記念館のサポーターの募集があったので、これなら身体に負担をかけずに大好きな歴史のボランティアができると思い、月1回の事前研修を受けることにしました。

(天野さん)

岐阜県と鹿児島県は宝暦治水が縁で友好県となり、双方の県や市町村、民間団体において、教育や文化、スポーツなど様々な分野で交流を深めているのは御存じですよ。

そのひとつとして、毎年、鹿児島の小、中学生が島津の敵中突破の軌跡をたどるために「踏破隊」を結成し、関ヶ原から上石津を歩くというものがあって、養老町の私の家の近くも通るんです。

養老町にある私の家は輪中にあり、小さいときからずっと宝暦治水で尽力してくださった薩摩藩島津家やその家老である平田靱負に恩を感じていて、何かの形で鹿児島の方々にお礼がしたいという想いをもち続けていました。

そこで、私は岐阜関ヶ原古戦場記念館のサポーターやせきがはら史跡ガイドになって、「踏破隊」のように鹿児島からいらっしゃる方々に対して、関ヶ原町の案内だけではなく、岐阜と鹿児島の交流や宝暦治水のお話をする事で、お礼を伝えようと考えました。

そういう理由で2019年の関ヶ原合戦祭りに遊びに行った際に、岐阜関ヶ原古戦場記念館のサポ

ーターの勧誘チラシを貰ったことをきっかけに、事前研修を受け、サポーターになったのです。

・『岐阜関ヶ原古戦場記念館サポーター』をしていて、どのような時に楽しいと感じたり、やりがいを感じたりするのかについて教えてください。

(二村さん)

全国から年齢層の様々な方が来館し、お話をすることができて楽しいです。

今、夏休みだから、小学生連れの方が大勢いらっしゃいます。

小学 5 年生くらいになると歴史に興味を持つようで、その子達にも分ってもらえるように話すのもおもしろいです。

私の案内で「よく分かりました」と言っていただけることも嬉しいですし、歴史が好きな方と武将の心理や合戦の前後を深く話すことができるのもいいですね。

知識はアップデートするべきだけど、学芸員ではないので完璧でなくていい。学芸員は裏付けのある定説しか話せない立場だけど、私達は諸説についても話せるという幅がある立場なところがいいと感じます。

(天野さん)

来館される方は歴史が好きな方ばかりなので、話していて楽しいです。

展望室からは関ヶ原の町が一望でき、私が教えた後で、現場(史跡)を見てもらうきっかけづくりになれたらと思っています。

「一度来たことがあるけど、話を聞きたくてもう一度来ました」とか、「詳しいですね」と言われることが嬉しいし、励みになりますね。

・『岐阜関ヶ原古戦場記念館サポーター』をする上で、岐阜関ヶ原古戦場記念館の研修を受講する以外に、各々努力していることはありますか？

(二村さん)

私は目が悪いので、本ではなく、ネットや BS の歴史番組で常に勉強しています。

関ヶ原だけでなく、長浜や大垣、岐阜で開催される講演会にも月に 1~2 回参加しています。

岐阜県では歴史に係る講演会や勉強する団体が多くあって、有名な先生が講師にきてくださるのでありがたいです。

歴史には定説というものがありますが、新しい説が次々に出てくるのでそれを知るの面白いですし、来館者の中には歴史に詳しい方もおみえになりますが、私も勉強をしているので、お互いの考えを確認・検証しあうのも面白いですね。

同じサポーターの方の中には私よりずっと知識のある方もみえるので、話していて勉強になり楽しいですし、刺激になります。

(天野さん)

私は関ヶ原ふれあいセンターで開催される『ふるさと関ヶ原歴史講座』や関ヶ原歴史民俗学習館で開催される『不破ふわ塾』等の生涯学習講座や研修に参加して勉強を続けています。

それぞれ、先生が説明をしてくださる講義形式だったり、皆で現地を廻り地形から歴史をひも解く形式だったり、講座によって歴史への切り込み方や深掘りのし方が違い、どの講座も面白いです。

そして、二村さんと一緒に『史跡ガイド養成講座』を受講していて、今年度は受講 2 年目になります。これを修了したら『せきがはら史跡ガイド』になることができるんですよ。

他には歴史番組や大河ドラマを見たり…。

こうやって、勉強してきたことを自分で資料にまとめてファイリングして、サポーターをする時にはいつも持ち歩いています。

また、以前はオリジナルの関ヶ原町の道案内を書いたプリントを自費で印刷して来館者に差し上げていましたが、今は YouTube を独学して、『アマちゃんねる』を開設し、関ヶ原の史跡を巡るいくつかのコースを案内しています。

・歴史の勉強以外に、趣味をお持ちですか？

(二村さん)

歴史に係ってくる部分もありますが、東京にいた時はよく歌舞伎座に行っており、今でも行っています。

岐阜県には地歌舞伎が今でも根付いていて、中津川などの古い芝居小屋やぎふ清流文化プラザに地歌舞伎を見に行くことも好きです。

それと山城巡りも好きで、天野さんとは一緒に山城巡りをする仲間でもあるんですよ。

老後の話にはなるのですが、私はたくさんの人と付き合うことや、たくさんの人とつながりを持つ必要は必ずしもないと思うんです。

同じものが好きな、趣味の合う人と気兼ねなく付き合い合えば良いと思います。

一緒に歌舞伎に行く人、一緒に地歌舞伎に行く人、一緒にお城巡りをする人…趣味毎に本当に気の合う友人が何人かいる。それで十分楽しいじゃないですか。

そういった意味でも、サポーターをしていて、歴史や城巡りなんかの趣味の合う人との出会いもあって良かったです。

(天野さん)

やはり歴史が好きなので、山城巡りや神社巡りをよくします。

私は旅が好きなのですが、“離島”が好きですね。

他には養老スポーツクラブの会長を務めていたこともあり、今も軽スポーツをしています。

自転車に乗ることも好きで、ブログを通じて、全国に自転車仲間がいます。

以前は何人かで集まって走りに行っていました。コロナ以降は集まることができなくなってしまい、

少し寂しく感じています。

でも自転車は一人でも楽しめるスポーツなので、最近は一人で走っています。

・お二人とも活動的ですね。

そんなお二人から、まだ何かを始めることに躊躇しているシニアの方に、背中を押すようなメッセージをお願いします。

(二村さん)

まず自分は「何が楽しかったの?」「何が楽しみだったの?」「何を喜んでしていたの?」「どういう時が嬉しかったの?」と問い直してみます。

基本的には自分が得意だったこと、好きだったけど仕事等で止まってしまっていたこと、そういうのがあると思うので、それに関連したことを始めたらいいのではないのでしょうか。

そしてそれがなければ、更にずっと遡って、自分が小学校時代や学生時代に夢中になったこと、好きだったこと、好きだった場所…それを問いただしてみようというのもどうでしょうか。

私は小学校の時から歴史や大河ドラマが好きでした。

それが今のお城につながって、歌舞伎につながって、ここのサポーターにもつながっています。

そうやって誰もが根っこというのはあると思うんですよ。

定年後の話といえば、私の友人に「定年後」というベストセラー本を書いた楠木新という作家がいて、そんな彼と定年前に「定年後、さあ何をしたらいいかな。」と話したことがありました。彼も「子供の頃の自分に立ち返る」「会社員で培った能力や力量を役立てる」と言っていました。それでやはり思ったのは、嫌いなこととか苦手なこと、やらされていることは、多少お金をもらったとしても長続きしないということです。やはり「好きなこと」「得意なこと」から始めてみるということでしょうか。

(天野さん)

コミュニケーションが大事で、まずは会話をするところから。

そのためには、自分から話しかけられるような場所を見つけると良いと思います。

そうすると話題を見つけるために、また相手からの質問に答えられるようにするために、あらゆるところで情報を得ようと日々過ごすようになります。

例えば、私の場合は来館者からどのような質問があったとしても答えられるようにしたいと思うので、勉強をするために色々な講座に参加しています。

また私の妻の場合は学童(放課後児童クラブ)で働いていることから、「子供達に折り紙を教えるあげると約束したから。」と、折り紙の本や YouTube を見て、折り方を調べています。

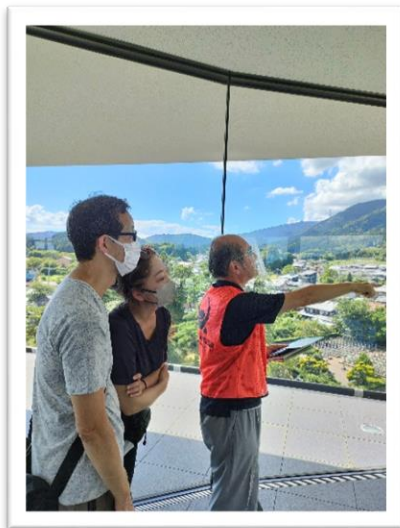
家にこもらず出ていくこと、声掛け1つをすることで、世界が広がり変わっていきますよ。

コミュニケーションで、明るく笑えるように。



(左写真 いなべ市からお越しの来館者に、フロアーにある航空写真で、敵陣を正面突破する『島津の退き口』のルートを示す天野さん。来館者は烏頭坂を歩いていなべ市の方面へ抜けるルートしかご存じではなかったところ、今では3つのルートに分かれて退却したという説があると聞いて、感心しきり。)

(右写真 2階の戦国体験コーナーにて、関ヶ原の合戦の時間経過における武将たちの動きを語る天野さん。スクリーンにも状況解説が出るが、詳細に天野さんが説明をしてくださるので映像だけに集中できる。)



(左及び下写真 5階展望室から見える景色とフロアーにある航空写真を用いて、史跡を案内する二村さん。フロアーにある航空写真に記された地名や史跡名には、漢字と共にローマ字も併記されていることから、特に外国人の来館者にはまずこれを見ていただいた後、眼下に広がる関ヶ原の町を指さし案内するのだと言う。)

